

未来の長浜市を創造するまちづくり委員会

住民自治・行財政分科会 議事録

日 時	平成21年10月6日(火) 19:00 ~ 21:00		
場 所	虎姫時遊館		
議 題	健全で効率的な行財政運営について		
出席者	川西章則会長、西村和洋副会長、東野 司委員、北川 薫委員、速水賢昭委員、小柳芳恵委員、落合武士委員、馬場鉄一委員、岡本 茂委員		
市	分科会事務局 岩根理事、武田主幹	総務課	米澤参事
6 町	虎姫町 津田主査		
傍聴者	あり(○人)・ <input type="checkbox"/> なし	報道機関	あり(○○新聞社)・ <input type="checkbox"/> なし

【協議結果】

- ① 決定事項
 - ・前回(8月11日開催分)の議事録を一部修正承認。
- ② 次回日程とテーマ
 - ・次回日程 11月2日(月) 19:00～
 - ・次回開催場所 「長浜市民交流センター 1階会議室」
 - ・次回テーマ 「中間とりまとめの確認について」
- ③ その他
 - ・特になし

【主な意見】(要点筆記)

委員長	今回は4回目でいよいよ大詰め、まとめの段階。前回議事録の確認ですが、何かありましたら。
A委員	子育ての発言で、「5年」を「5人」に修正いただきたい。
委員長	他なければ、事務局で一部修正し、承認とします。 今後のスケジュールについて事務局の方から説明願います。
事務局	“未来の長浜市を創造するまちづくり委員会の流れ”の資料で説明。 市長への提言時期は、予定では1月中。 11月13日の合併法定協議会で、委員会の中間とりまとめを報告予定。 各分科会の議事録からとりまとめ、確認いただき法定協議会で報告。 報告は、下坂会長から報告を予定調整中。 最終の提言案は、素案をたたき台に12月中に各分科会で議論いただき1月に提言。 提言内容は、4部構成。委員会名の“未来の長浜市を創造する”会にふさわしい表現や内容でまとめていきたい。

B委員	<p>まとめの段階だが、社会的弱者、声なき声を行政にどのように反映していくか、意見を聞き入れる仕組みについて議論の時間がほしい。住民自治の市長提言として大切。審議会や委員会を設けて意見を聞いているが、全体の意見ではない。</p>
委員長	<p>全分科会の共通項目。全般的には合併基本計画に基づくものの中に、住民の視点に立った内容はいくつもあったが、総括的に最終的な議論は必要かと思う。中間報告のまとめを含め、日程的に皆さんに寄って貰う回数が増えるが。</p>
事務局	<p>会議の開催は、分科会判断で自由です。次回会議は、中間とりまとめの確認作業であり、十分な議論の時間はあると思う。</p>
委員長	<p>皆さん都合にあわせたいが、都合のつかない方はやむを得ない。11月2日月曜日19と、12月18日でよろしいか。場所は事務局一任とします。</p> <p>本日のテーマ“健全で効率的な行財政運営”について。</p> <p>地方分権をすすめるにあたり、市民と行政とお互いが連携して進めていく。地域的な視点に立った行政改革、効率的な財政は市政運営の重要な課題です。</p>
事務局	<p>今日のテーマで提示できるものを探したが、適当な資料がなく、あくまでも目安として見ていただきたい。</p> <p>長浜市の行政改革の取り組みと他の団体との比較表について説明。</p> <p>長浜市の行政改革大綱は、行政のスリム化、市民と行政の協働による地域経営が柱。類似団体は、合併推進室のホームページ等から。県下の東近江市と、類似団体平均は新行政推進室が想定する平均値。職員数と歳出総額、主な公の施設数。</p> <p>職員数は20年4月1日時点で算出、新市と類似団体の比較で約300人多い。歳出総額は1市6町合計554億円、東近江市451億、類似団体平均449億円。主な公の施設数は、一般的なもので場合新長浜市が205つ、東近江市が159、類似団体の平均が131.5。</p>
C委員	<p>各市町が20年度の決算を承認し、財政規模に対する負担比率の状況、財政負担比率の県下での状況、合併後の長浜市の状況はどうか。次に、財政計画の中で行政サービスの低下が懸念され、支所間も含め行政運営格差がでることはないのか。</p>
担当課	<p>平成19年の普通決算で見ると、交際費14.1、全国平均で12.3、滋賀県で14.5という中で長浜は14.1。H19年度ベースで1市6町あわせて、交際費が15.7。</p>
D委員	<p>西浅井町が22.8で、去年が20.6、うちが滋賀県で一番高い。次に余呉。</p>
B委員	<p>余呉も19年度は21.3でしたが年々改善している。</p>
D委員	<p>長浜市は行革を18年度から3年近く取り組まれたようだが、この資料ではその結果が分からない。財政改革も、歳出総額だけで歳入が分からない。職員数も、1106人は現在の人数で、東近江市は合併後3年以上経ており、比べる参考にならない。</p>
担当課	<p>今回の資料は、合併後、市はこういう規模になるとの提示である。</p> <p>市は、行革大綱と同時に集中改革プランを立て、毎年目標をたて実行してきた。職員数も1市2町合併前をベースに10年間で185人減らす方向で、H21年までで138人減と、目標より早いペース。この資料は更に“295人減する”という意味になっている。歳出も集中改革プランで毎年6億円の収支改善の目標と一般会計予算を1市2町当時の人口</p>

規模の団体と同じ財政規模にする計画があり、毎年 10 億円ずつ当初予算を下げてきた。これは全く何もしていなかった数字ではなく、1 市 2 町合併後やってきた上で、更に今後これだけ必要になるという意味合いの数字である。

- D委員 職員数 1106 人は、類似団体から見ても多いのか。
- 担当課 1106 人は普通会計の職員数のみであり、病院や広域企業の数字は除いている。長浜市の現在の取り組みを紹介する資料は他にもある。しかし、今日は、今後さらに職員を約 300 人減、歳出も 110 億円減という中で、行政改革や市民サービスの確保という意味において、皆さんのご意見をお聞きできるとの思いから、今日の資料とした。
- E委員 各支所に住民自治のための「地域予算」を提案する。行財政の効率化は前提だが、生き生きとまちづくりができる仕組みづくりは必要だと思う。
- 委員長 財政が厳しくなれば行政サービスの低下も出てくる。住民と行政の協働という視点の中で、サービス低下を感じさせない仕組み作りを、提言することはポイントだ。
- A委員 介護の仕事でサロンがある。サロンは全くのボランティアで、ハートで人を動かすことで始まった福祉サービス。余裕ある女性が集まり、地域の老人に楽しんでもらう企画。人も地域も活性化し、今クローズアップされている。
- 委員長 合併後の市所管課は、いかにそういった視点で施策を考え、予算を確保できるかだ。
- B委員 例えば市にも職員適正化計画があると思うが、それに照らしあわせて長浜市の仕事がこれだけあるから職員が必要だ。
- F委員 今回の合併で、特に伊香郡の方が不安なのは、おいていかれるのではという思い。その払しょくには、支所に予算と権限を付与してほしい。もう一点は、地域づくり協議会。地域が自立するため、本格的に稼動するまで『アドバイザー』を設置してほしい。
- G委員 地域づくり協議会は、東近江市と比較した資料から予算が随分違う印象を持った。また、本来行政がなくていいことをしている面があり財政に影響していると思う。住民側に『行政サポーター』のような組織ができれば、効率のいい行財政になるのかなあと思う。
- H委員 支所の予算は、どういう形で吸い上げていくのか。
- 事務局 市として決めたら、支所に配分される。支所独自に予算を取り、自由に使うというものではない。できることの仕分けを組織的に行い、全体の予算の中で調整する。それぞれの業務には担当課があり、出先の機関は、地域の意見を吸い上げる機能はあっても、本庁から現場を見て執行となる。
- F委員 1 市 2 町合併し 3 年になるが、予算配分はどうか。浅井、びわの公共事業で、どうしても長浜中心に予算が使われると聞くが、それが先程いった不安につながっている。
- 事務局 それはない。予算規模が昨日の新聞にもものっていたが、27 億円減り、できたこともできなくなっているのは事実です。予算が削減される中、人を減らし皆で助け合ってやっていかざるを得ない。

E委員	合併特例法は5年で終わる。10年と5年ではずいぶん違う。実際1年で40億くらいずつお金が公費で入ってこなくなる、これは大変な額です。
I委員	最初の1市9町の合併の時に合併特例債があればまだ潤いがあった。合併後は、限られた予算を、本当にやるべきものに投資する。現長浜市の議員も減るし、各地域のエゴも出てくる。だから、市全体を見る議員をきちんと選んで、地域の意見を聞き取り行政に要望する。職員もレベルを上げ、より専門的な知識で仕事をしてもらう。
委員長	選択と集中の時代で、分捕りの時代は終わった。今まちづくり協議会に投げかけられているのは、市から公民館を指定管理者制度により地域で運営してくださいというもの。行政サービスの中には、地域でできるものがまだある。
A委員	ボランティア団体を使ってやってもらうとお金を要求しません。地域でやれることはやりますので行政の力を貸してください。
F委員	木之本でも4学区でやりたいなど進めているが、リーダーは何をしいのか分からないし、思い浮かばない。アドバイザーを設置し、分かる方にリーダーになっていただいて地域づくりを進めて行きたいと思う。
委員長	地域は自治会長さん中心で活動をされているが、どこも自治会長は1年で交代。地域づくりは継続が大事だ。協議会で人材を確保して、協議会中心で地域を動かしていく。個人的には、市が自治組織を作った以上、自治会に流れていた予算が協議会に徐々に振り返られていることは当然だと思う。
事務局	微妙ですが、基本的には自治会に流れていく施策が多いです。ただし、地域づくり協議会へお願いしていくという方向になってくるかなと思う。全く同じではないが、車の両輪でまちづくりにうまく活力を発揮してもらえば、地域は更によくなります。
I委員	公民館の事務方が自治会の運営の手助けをして、自治会長は行事をこなすことで精一杯。地域全体をまとめるのは、経験等からそれなりに自信がある方に動かしていただく。
F委員	リーダー次第で地域格差ができる。いろんな事業をして長浜に計画書を持って行って予算をつけてもらうが理想。ところが今北の方では区長さんは順番です。
委員長	どこでも若者のやり手はいる。本当のリーダーは、やることを理解し協力できる人、協力者だ。協力者が多数いて初めて組織は成り立つ。名張市は協議会に職員の併任辞令が出ている。協議会の中の下働きではなく、地域と一緒に活動する。すると地域間競争がでてくる。職員は地域活動に積極的に参加願いたい。
D委員	地域には、集落の距離、年代差、若者の有無といった課題があり、一律に評価し線引きはできない。その辺の目線を持って見てもらう事と、もう一つは情報公開。今後、地域間で不平不満が出てくるだろう。徹底した情報公開で納得した事業をしてほしい。
B委員	いままでのやり方はやめ、議会も行政も広い視野で、職員はもっと広い視野で物事を見る必要がある。それでこそ地域社会全部が公平な行政ができる
J委員	合併後の市財政が非常に厳しいことは皆が知っていた。1市9町の合併であれば合併特

例債を有効に使い、いかにお金儲けして体力ある市が作れるか、そういう面をもっと検証すべきでした。今回、その反省もなく1市6町合併が進み、私は反対ではないが、今少し熟考してはと。お金を生み出すシステム作りや、湖北地域に住み続ける、外から住みたいと思えるまちづくり、その議論がなくていいのかと。国の財政が苦しい等あるが、いざ地域が主体的に合併に取り組むなら、夢を持って進めたい。市議会からこの会をつくろうと話がでた時に、「魅力あるまちづくりの議論を深めていただきたい。でないと合併に賛同できない」と申し上げた。本来この分科会も、合併協定書が締結される前に行われ、その後、合併が決まる形が理想でしたが、逆転して進んでいます。

J委員　いままでの議論で見えてきた地域づくり協議会と行政との係わり。例えば道路の補修でも、行政と地域づくり協議会の役割を分け、地域づくり協議会という組織の中で年間の予算を要求し、それを反映する形で予算がくるように持っていく。顔が見える学区単位がいいと思っていますが、その中で地域づくり協議会を立ち上げ、行政職員を配置し、行政のやる仕事、地域づくり協議会のやる仕事を線引きしながら、効率化を求める。面積の広い市域の中で、行政サービスの低下を住民がなるべく感じずにできる行政運営はその手法しかないと思います。

J委員　いま本庁舎の建て替えの話があるが、大きい建物がいるのか。ネット社会の今、支所が連携すれば、大きな庁舎と同じ機能が持てます。庁舎建設に60億など必要ない。いろんな部分で地域づくり協議会を活用し行政予算を削り、住民が必要なところにお金いくシステム作りを、この会で議論したいと思っていました。

F委員　各支所には立派な庁舎があり、可能な限り、いまある建物を活用していく。地域住民が、市役所を身近に感じることもできる。

委員長　私もMITと慶応の学生を地域に受け入れて3年。彼らは建物はなくても民家を活用して寝泊りする。そして東京の学校とこちらにいる学生がインターネットで即時に会議をする。箱物は、整理していかないといけない、そんな時代です。

F委員　直ぐに公の施設の問題がでてくる。有効活用すればよく、新たに作る必要ない。

D委員　非常にいい意見だから是非ともあげていただきたい。

B委員　施設が有効に活用されなかったら、例えば余呉でも福祉施設があるが、地域には、数えるほどしか使われていない施設がまだまだある。

A委員　この地域づくり協議会は、お金を生み出すような動き、例えば地域の商工会と連携したりするような活動は別なのですか。

委員長　これから取り組むべき一つの方向。企業との連携、事業展開、人は地域ボランティアといった構成の中で地域に入り込んで一体的に行う。これからの課題かと。地域が抱えるせっぱ詰まった課題もあるが、皆で共有し受け止めなければ、一つの心になって動くのは難しい。では、次回までにまとめていただき、冒頭にも話がありましたが、総括的にももっと議論したい内容についても、次の会合で進めていきたい。今回は11月2日です。宜しくお願いします。